

食品安全委員会の運営について（令和2年10月～令和2年12月）（案）

1. 食品安全委員会の開催

10月：第792回・第793回・794回・795回（4回）

（1）食品健康影響評価の要請案件（5案件、15品目）

農薬（5品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・シアゾファミド ・ジメテナミド ・ペンディメタリン ・マンジプロパミド ・メタフルミゾン
動物医薬品（1品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・オクスフェンダゾール、フェバンテル及びフェンベンダゾール
遺伝子組換え食品等（7品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・除草剤グリホサート誘発性雄性不稔並びに除草剤ジカンバ、グルホシネート、アシルオキシアルカノエート系及びグリホサート耐性トウモロコシMON87429系統（食品） ・除草剤グリホサート誘発性雄性不稔並びに除草剤ジカンバ、グルホシネート、アシルオキシアルカノエート系及びグリホサート耐性トウモロコシMON87429系統（飼料） ・Raα 3114株を利用して生産されたプロテアーゼ ・RG-V1株を利用して生産されたL-バリン ・長鎖多価不飽和脂肪酸含有及びイミダゾリノン系除草剤耐性セイヨウナタネLBFLFK（食品） ・長鎖多価不飽和脂肪酸含有及びイミダゾリノン系除草剤耐性セイヨウナタネLBFLFK（飼料） ・Komagataella pastoris 132株を利用して生産されたフィターゼ
飼料添加物（1品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・安息香酸
対象外物質（1品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・安息香酸

（2）食品健康影響評価の結果通知案件（2案件、11品目）

農薬（4品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・フェンキノトリオン ADIを0.0016 mg/kg 体重/日と設定し、ARfDは設定する必要がないと判断。 ・フルオキサストロビン ADIを0.015 mg/kg 体重/日と設定し、ARfDは設定する必要がないと判断。 ・チエンカルバゾンメチル ADIを1.1 mg/kg体重/日と設定し、ARfDは設定する必要がないと判断。
---------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<ul style="list-style-type: none"> ・カスガマイシン <u>ADIを0.094 mg/kg体重/日と設定し、ARfDは設定する必要がないと判断。</u>
動物用医薬品（7品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・オクスフェンダゾール、フェバンテル及びフェンベンダゾール <u>オクスフェンダゾール、フェバンテル及びフェンベンダゾールのグループADIをオクスフェンダゾールスルホンとして 0.007 mg/kg 体重/日と設定。</u> ・フェバンテルを有効成分とするふぐ目魚類及びすずき目魚類の寄生虫駆除剤（マリンバンテル） <u>本製剤が適切に使用される限りにおいては、食品を通じてヒトの健康に影響を与える可能性は無視できる程度と考えた。</u> ・グレプトフェロン及びトルトラズリルを有効成分とする豚の注射剤（バイコックスアイアン注射液） <u>本製剤が適切に使用される限りにおいては、食品を通じてヒトの健康に影響を与える可能性は無視できる程度と考えた。</u> ・鶏伝染性ファブリキウス嚢病・マレック病（鶏伝染性ファブリキウス嚢病ウイルス由来VP2遺伝子導入七面鳥ヘルペスウイルス）凍結生ワクチン（バキシテックHVT+IBD） <u>本製剤が適切に使用される限りにおいて、食品を通じてヒトの健康に影響を与える可能性は無視できる程度と考えた。</u> ・オイゲノール <u>「暫定基準が設定された動物用医薬品及び飼料添加物に係る食品健康影響評価の考え方について」の3の（1）に該当する成分であると判断され、現行のリスク管理の範囲で使用される限りにおいて、その食品健康影響は無視できる程度と考えた。</u> ・オキシクロザニド <u>「暫定基準が設定された動物用医薬品及び飼料添加物に係る食品健康影響評価の考え方について」の3の（1）に該当する成分であると判断され、現行のリスク管理の範囲で使用される限りにおいて、その食品健康影響は無視できる程度と考えた。</u> ・クロルヘキシジン <u>「暫定基準が設定された動物用医薬品及び飼料添加物に係る食品健康影響評価の考え方について」の3の（1）に該当する成分であると判断され、現行のリスク管理の範囲で使用される限りにおいて、その食品健康影響は無視できる程度と考えた。</u>

(3) その他

- ・食品用器具及び容器包装に関する食品健康影響評価指針(案)を決定。
- ・令和2年度食品安全確保総合調査追加課題(案)を決定。
- ・食品安全委員会の運営について(令和2年7月～令和2年9月)を報告。

11月：第796回・797回・798回（3回）

（1）食品健康影響評価の要請案件（3案件、9品目）

農薬（7品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・ MCPA ・ ユニコナゾールP ・ キャプタン ・ クロルピクリン ・ セダキサシ ・ プロシミドン ・ メタミホップ
動物用医薬品（1品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・ ルバベグロン
遺伝子組換え食品等（1品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・ BML780 MDT06-221株を利用して生産されたα-アミラーゼ

（2）食品健康影響評価の結果通知案件（3案件、5品目）

添加物（1品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・ キチングルカン <p><u>適切に使用される場合、安全性に懸念はない。</u></p>
農薬（1品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・ トルフェンピラド <p><u>ADIを0.0056 mg/kg体重/日、ARfDを0.01 mg/kg体重と設定。</u></p>
動物用医薬品（3品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・ ナフシリン <p><u>「暫定基準が設定された動物用医薬品及び飼料添加物に係る食品健康影響評価の考え方について」の3の（1）に該当する成分であると判断され、現行のリスク管理の範囲で使用される限りにおいて、その食品健康影響は無視できる程度と考えた。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ メシリナム <p><u>「暫定基準が設定された動物用医薬品及び飼料添加物に係る食品健康影響評価の考え方について」の3の（1）に該当する成分であると判断され、現行のリスク管理の範囲で使用される限りにおいて、その食品健康影響は無視できる程度と考えた。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 酢酸イソ吉草酸タイロシン <p><u>「暫定基準が設定された動物用医薬品及び飼料添加物に係る食品健康影響評価の考え方について」の3の（1）に該当する成分であると判断され、現行のリスク管理の範囲で使用される限りにおいて、その食品健康影響は無視できる程度と考えた。</u></p>

（3）その他

- ・ 令和3年度食品安全モニターの募集方針について事務局から説明。

12月：第799回・800回・801回（3回）

（1）食品健康影響評価の要請案件（2案件、7品目）

農薬（5品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・ピリオフェノン ・フルチアニル ・プロパルギット ・ホラムスルフロン ・マンデストロビン
遺伝子組換え食品等（2品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・MAM株を利用して生産されたα-アミラーゼ ・DSM32805株を利用して生産されたキモシン

（2）食品健康影響評価の結果通知案件等（6案件、11品目）

添加物（2品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・亜硫酸水素アンモニウム水 <u>添加物として適切に使用される場合、安全性に懸念がないと考えられ、許容一日摂取量を特定する必要はないと判断。</u> ・ポリビニルイミダゾール-ポリビニルピロリドン共重合体 <u>添加物として適切に使用される場合、安全性に懸念がないと判断。</u>
農薬（2品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・フラザスルフロン <u>ADIを0.013 mg/kg体重/日、ARfDを0.5 mg/kg体重と設定。</u> ・ホスチアゼート <u>ADIを0.002 mg/kg体重/日、一般の集団に対するARfDを0.007 mg/kg体重、妊婦又は妊娠している可能性のある女性に対するARfDを0.002 mg/kg体重と設定。</u>
動物用医薬品（5品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・ニトロキシニル <u>「暫定基準が設定された動物用医薬品及び飼料添加物に係る食品健康影響評価の考え方について」の考え方の3の（1）に該当する成分であると判断され、現行のリスク管理の範囲で使用される限りにおいて、その食品健康影響は無視できる程度と考えられる。</u> ・メンブトン <u>「暫定基準が設定された動物用医薬品及び飼料添加物に係る食品健康影響評価の考え方について」の考え方の3の（1）に該当する成分であると判断され、現行のリスク管理の範囲で使用される限りにおいて、その食品健康影響は無視できる程度と考えられる。</u> ・イソメタミジウム <u>「暫定基準が設定された動物用医薬品及び飼料添加物に係る食品健康影響評価の考え方について」の考え方の3の（1）に該当する成分であると判断され、現行のリスク管理の範囲で使用される限りにおいて、その食品健康影響は無視できる</u>

	<p><u>程度と考えられる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> フルララネルを有効成分とする鶏の飲水添加剤(エグゾルト) <u>本製剤が適切に使用される限りにおいては、食品を通じてヒトの健康に影響を与える可能性は無視できる程度と考えた。</u> ゼラノール ADIを1.3 μg/kg体重/日と設定。
<p>プリオン（2案件）</p>	<ul style="list-style-type: none"> デンマーク及びオーストリアから輸入される牛肉及び牛の内臓 <u>デンマーク及びオーストリアから輸入される牛肉及び牛の内臓の月齢制限をそれぞれ「条件なし」としたとしても、人へのリスクは無視できると判断した。</u> フィンランドから輸入される牛、めん羊及び山羊の肉及び内臓 フィンランドから輸入される牛肉及び牛の内臓について、① <u>月齢制限を現行の「輸入禁止」から「月齢条件なし」としたとしても、人へのリスクは無視できると判断した。また、「② SRM の範囲を現行の「輸入禁止」から「全月齢の扁桃及び回腸（盲腸との接続部分から 2メートルの部分に限る。）、30 か月齢超の頭部（舌、頬肉、皮及び扁桃を除く。）並びに脊椎及び脊柱」としたとしても、人へのリスクは無視できると判断した。</u> フィンランドから輸入されるめん羊及び山羊の肉及び内臓について、<u>現行の「輸入禁止」から「SRM の範囲を、12 か月齢超の頭部（扁桃を含み、舌、頬肉及び皮を除く。）及び脊椎並びに全月齢の脾臓及び回腸とし、SRM を除去したもの」としたとしても、人へのリスクは無視できると判断した。</u>
<p>遺伝子組換え食品等（2品目）</p>	<ul style="list-style-type: none"> CF307株を利用して生産されたキシラナーゼ <u>「遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物の安全性評価」に基づき評価した結果、ヒトの健康を損なうおそれはないと判断した。</u> ZGL株を利用して生産されたグルコースオキシダーゼ <u>「遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物の安全性評価」に基づき評価した結果、ヒトの健康を損なうおそれはないと判断した。</u>

(3) その他

- 「酵素を有効成分とする飼料添加物の食品健康影響評価の考え方について」を報告

2. 専門調査会等の運営（全26回）

専門調査会等名	開催回数	調査審議案件
企画等	1回	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度食品安全委員会運営計画の実施状況の中間報告について 令和2年度食品安全委員会が自ら行う食品健康影響評価の案件候補の選定について
農薬第一	1回	<ul style="list-style-type: none"> 残留農薬に関する食品健康影響評価指針の関係資料の作成について
農薬第二	1回	<ul style="list-style-type: none"> ペンディメタリン
農薬第三	2回	<ul style="list-style-type: none"> フェナリモル
農薬第四	1回	<ul style="list-style-type: none"> マンジプロパミド メタミホップ
農薬第五	2回	<ul style="list-style-type: none"> ポリオキシシン（ポリオキシシンD亜鉛塩及びポリオキシシン複合体）
動物用医薬品	3回	<ul style="list-style-type: none"> トロメタジンジノプロストを有効成分とする牛の注射剤（動物用プロナルゴンEZ注射液） イソオイゲノール ルバベグロン
プリオン	1回	<ul style="list-style-type: none"> スペインから輸入される牛肉及び牛の内臓 牛海綿状脳症（BSE）国内対策の見直し（SRMの範囲）
遺伝子組換え食品等	4回	<ul style="list-style-type: none"> LFS株を利用して生産されたりパーゼ ジャガイモ疫病抵抗性、低遊離アスパラギン、低還元糖及び低ポリフェノール酸化酵素ジャガイモSPS-00X17-5（食品・飼料） ジャガイモ疫病抵抗性、低遊離アスパラギン、低還元糖及び低ポリフェノール酸化酵素ジャガイモSPS-000Z6-5（食品・飼料） 除草剤グリホサート誘発性雄性不稔並びに除草剤ジカンバ、グルホシネート、アリルオキシアルカノエート系及びグリホサート耐性トウモロコシMON87429系統 Raα3114株を利用して生産されたプロテアーゼ RG-V1株を利用して生産されたL-バリン Komagataella pastoris 132株を利用して生産されたフィターゼ 長鎖多価不飽和脂肪酸含有及びイミダゾリノン系除草剤耐性セイヨウナタネLBFLFK BML780 MDT06-221株を利用して生産されたα-アミラーゼ MAM株を利用して生産されたα-アミラーゼ DSM32805株を利用して生産されたキモシン
肥料・飼料等	2回	<ul style="list-style-type: none"> 酵素を有効成分とする飼料添加物の食品健康影響評価の考え方について カンタキサンチン クロキサシリン トリメトプリム 安息香酸
薬剤耐性菌WG	1回	<ul style="list-style-type: none"> 亜鉛バシトラシン

		<ul style="list-style-type: none"> ・スルフォンアミド系合成抗菌剤
評価技術企画WG	3回	<ul style="list-style-type: none"> ・食品健康影響評価における(Q)SARの活用について ・BMD法に関連する研究事業の成果報告等
アレルギーを含む食品に関するWG	2回	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギーを含む食品に関する食品健康影響評価について
鉛WG	2回	<ul style="list-style-type: none"> ・鉛の食品健康影響評価について
菌末を原材料として使用する調製粉乳に関するWG	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・菌末を添加した調製粉乳の安全性評価について

3. 意見交換会の開催等

(1) 意見交換会 (全4回)

開催日	開催地	意見交換会名	共催団体	主な対象者
11/6	web開催 ／動画配信	食品に関するリスクコミュニケーション 「共に考える 食品中の放射性物質」	消費者庁、 厚生労働省、 農林水産省	大学生 (立命館大学)
12/21	web開催	地方共催意見交換会 リスクコミュニケーション「身近な食品のリスク～今日から知って、考えて、行動しよう～」	京都府	栄養学を学ぶ大学生
12/21	動画配信	親子で学べる特設ウェブコンテンツ 「知ろう！考えよう！食べものと放射性物質」	消費者庁、 厚生労働省、 農林水産省	一般消費者
12/24	動画配信	食品に関するリスクコミュニケーション 「共に考える 食品中の放射性物質」	消費者庁、 厚生労働省、 農林水産省	大学生 (東京農業大学)

(2) 講座 (全1回)

開催日	開催地	講座名	対象者
10/30	動画配信	精講：食品健康影響評価のためのリスクプロファイル ～ノロウイルス～ *山本委員	食品関係事業者等

(3) 講師派遣 (全5回、うち委員4回)

開催日	開催地	講演会名	依頼者	対象者
11/4	web開催	食の安全・安心の確保に関する講演会・意見交換会 (テーマ：食品安全を守る仕組みと食品添加物の安全性について)	石川県	一般消費者
11/7	web開催	第6回 次世代を担う若手のためのレギュラトリーサイエンスフォーラム (テーマ：食品の安全確保におけるレギュラトリーサイエンスの役割－薬学の視点から－) *川西委員	公益社団法人日本薬学会レギュラトリーサイエンス部会	研究者等

11/11	web開催	甲府市食品リスクコミュニケーター養成講座 (テーマ：情報を見極める方法や正しい情報の伝達の方法) *堀口委員	消費者庁	リスクコミュニケーター候補者
12/2	web開催	第36回食品化学シンポジウム (テーマ：食品安全委員会における食品リスク評価の動向) *川西委員	日本食品化学学会	研究者等
12/18	web開催	日本食品衛生学会近畿ブロック公開セミナー (テーマ：残留農薬等の安全性評価) *吉田緑委員	日本食品衛生学会	研究者等

(4) 訪問学習 (全2回)

開催日	内容	依頼者	対象者
12/4	・ 食品安全を守る仕組み ・ 「健康食品」について安全な選択をするために (19のメッセージ) ・ 食品健康影響評価のためのリスクプロファイル ～ノロウイルス～ をテーマとして説明。 (Web開催)	慶應義塾大学	大学院生
12/18	「農薬のリスク評価」をテーマとして、食品安全行政のしくみやリスク評価等について説明。 (Web開催)	新潟大学	大学院生

4. 情報提供

Facebook、ブログ

健康に被害を及ぼすおそれのある案件、国民の関心が高い案件についての機動的な情報提供。

■10月：19 記事

閲覧数（Facebook）約32,700件/月、（ブログ）約3,600件/月

投稿日	記事内容
1	【お母さんになるあなたへ】～妊娠中はバランスの良い食生活を心掛けましょう～
6	今年も知って防ごう！ノロウイルスによる食中毒（第1回：発生状況と症状）
8	塩と健康 ～ナトリウム摂取と高血圧～
9	毒キノコによる食中毒に注意！
	【食品安全委員会 今週の公表事項 10/5～10/9】
12	今年も知って防ごう！ノロウイルスによる食中毒（第2回：ウイルスの特徴）
16	令和2年度調査事業の公募について（一般競争入札／総合評価落札方式）
	【食品安全委員会 今週の公表事項 10/12～10/16】
19	塩と健康 ～身近な食べ物の食塩量～
20	旬のギンナン～食べ過ぎに要注意～
21	【お母さんになるあなたへ】～妊娠中はアルコールを飲まないで～
22	【キッズボックス】カフェインを摂りすぎないために～カフェインを含む食べ物～（2020年10月号）
23	今年も知って防ごう！ノロウイルス食中毒（第3回：感染経路と原因食品）
	【食品安全委員会 今週の公表事項 10/19～10/23】
26	塩と健康 ～まとめ～
28	薬剤耐性（AMR）対策推進月間が始まります！（第1回）
29	【編集後記：神無月】11/26・27北海道アグリ・フードフォーラムのお知らせ
30	【精講の動画配信のお知らせ】ノロウイルスの特徴を理解する、食中毒を防ぐ

■11月：27記事

閲覧数（Facebook）約40,100件/月、（ブログ）約4,100件/月

投稿日	記事内容
2	今年も知って防ごう！ノロウイルスによる食中毒（第4回：予防方法）
4	今月は、薬剤耐性（AMR）対策推進月間です！（第2回：薬剤耐性と食品）
5	鶏肉・鶏卵の安全性について～香川県の農場において高病原性鳥インフルエンザウイルスを確認～
6	【食品安全委員会 今週の公表事項 11/2～11/6】
8	香川県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認について
10	【キッズボックス】カフェインを摂りすぎないために～1日に摂った量はどのくらいかな～（2020年11月号）
	【動画】食品をより安全にするための5つの鍵
11	香川県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認について
	今月は、薬剤耐性（AMR）対策推進月間です！（第3回：薬剤耐性と食品安全委員会）
12	令和2年度調査事業の公募について（一般競争入札／総合評価落札方式）
13	香川県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認について
	【食品安全委員会 今週の公表事項 11/9～11/13】
15	香川県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認について
16	【質問を受付中です！】ノロウイルスの特徴を理解する、食中毒を防ぐために
17	【お母さんになるあなたへ】～赤ちゃんには絶対ハチミツを与えてはいけません～
18	今月は、薬剤耐性（AMR）対策推進月間です！（第4回：食品健康影響評価）
19	【ストップ！食中毒】ヒスタミンによる食中毒を知ろう
20	香川県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認について

	【食品安全委員会 今週の公表事項 11/16～11/20】
21	香川県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認について
24	【ストップ！食中毒】ヒスタミンによる食中毒の予防法
	【丁寧な手洗いで食中毒予防】
25	福岡県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認について
	今月は、薬剤耐性（AMR）対策推進月間です！（第5回：食品健康影響評価の結果とこれから）
26	兵庫県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認について
27	【食品安全委員会 今週の公表事項 11/24～11/27】
30	【編集後記：霜月】北海道アグリ・フードフォーラム2020開催延期＆「精講」動画内容への質問受付は本日までです！

■12月：24記事

閲覧数（Facebook）約28,800件/月、（ブログ）約2,600件/月

投稿日	記事内容
1	宮崎県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認について
	【食品安全モニターの募集を開始しました】
4	【食品安全委員会 今週の公表事項 11/30～12/4】
6	奈良県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認について
7	広島県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認について
8	【精講のQ&Aを更新しました】ノロウイルスの特徴を理解する、食中毒を防ぐ
10	大分県及び和歌山県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認について
11	岡山県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認について
	「お母さんになるあなたへ」～赤ちゃんに食べさせる時注意すること～
	【食品安全委員会 今週の公表事項 12/7～12/11】
13	滋賀県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認について

14	【キッズボックス】食べ物を安全に食べるために～加熱調理の役割～（2020年12月号）
15	本日、食品安全委員会は第800回を迎えました。
16	高知県及び香川県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認について
18	【食品安全委員会 今週の公表事項 12/14～12/18】
19	徳島県及び宮崎県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認について
21	Webサイト豆知識 ～50音順のハザード情報ページ更新のお知らせ～
22	「ノロウイルスによる食中毒に注意しましょう」
23	親子で学べる特設ウェブコンテンツ「知ろう！考えよう！食べものと放射性物質」を公開しました
24	千葉県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認について
25	【食品安全委員会 今週の公表事項 12/21～12/25】
	食品安全委員会の英文電子ジャーナル「Food Safety - The Official Journal of Food Safety Commission」Vol. 8, No.4を公開しました。
	"Food Safety - The Official Journal of the Food Safety Commission of Japan" Volume 8, Number 4 has just been published.
28	【編集後記：師走】年末のご挨拶

食品健康影響評価の審議状況

(令和2年12月25日現在)

区分	諮問案件						自ら評価
	要請件数 注1、2)	うち 令和2年度分	審議中 注3)	意見 募集中 注4)	評価終了 件数	うち 令和2年 度分	評価終了 注5)
添加物	296	1	1		295	8	
栄養成分添加物	2		1		1		
香料	7				7		
農薬	1272	30	164		1108	27	
うちポジティブリスト関係	543	1	139		404	5	
うち清涼飲料水	25				25		
うち飼料中の残留農薬基準	59		19		40	1	
動物用医薬品	634	7	25	1	608	17	
うちポジティブリスト関係	137		24		113	9	
器具・容器包装	21		3		18		
汚染物質等	67		1		66		2
うち清涼飲料水	52		1		51		
微生物・ウイルス	21	1	1		20	1	2
プリオン	67	2	8	1	58	3	14
かび毒・自然毒	9				9		5
遺伝子組換え食品等	337	20	28	3	306	4	
新開発食品	91				91	1	3
肥料・飼料等	307	5	54	2	251	8	
うちポジティブリスト関係	142		44	2	96	4	
薬剤耐性菌	68		10		58	2	
高濃度にジアシルグリセロールを含む食品に関するWG	1				1		
食品による窒息事故に関するWG	1				1		
放射性物質の食品健康影響に関するWG	2				2		
その他(指定成分、アルミニウム)	2				2		
合計	3205	66	296	7	2902	71	26

- (注) 1 リスク管理機関から、評価要請後に取り下げ申請があった場合には、その分を要請件数から減じている。
 2 評価の過程で新たに審議する必要がある案件が生じた場合には、評価終了時にその案件数を要請件数に加算している。
 3 「審議中」欄には、審議継続の案件のほか、今後検討を開始するものを含む。
 4 「意見募集中」欄には、意見情報の募集を締め切った後に検討中のものも含む。
 5 自ら評価案件については、「評価終了」の欄では、複数省庁に答申したもの、答申が複数案件となったもの等について、その数を記入しているものもある。なお、現在審議中の案件は「食品及び器具・容器包装中の鉛」、「アレルギーを含む食品」、「硫酸コリスチン(薬剤耐性菌)」であり、「硫酸コリスチン(薬剤耐性菌)」は意見募集中である。
 6 「飼料中の残留農薬基準」欄については、ポジティブリスト制度の導入に際して、飼料中の残留基準が設定された農薬についての食品安全基本法第24条第2項に基づく意見聴取案件数である。
 7 「薬剤耐性菌」欄には、肥飼料・微生物合同調査会(H18.3.6～H27.8.24)で審議したものも含む。

委員会の意見の聴取に関する案件の審議状況

(2020年12月25日現在)

参考2

I 専門調査会において検討中、または今後検討を開始するもの

接受日	要請元	食品健康影響評価の対象	
2003/7/3	厚	清涼飲料水の規格基準を改正すること(汚染物質1物質)	1
2003/12/8	農	薬剤耐性菌 飼料添加物として指定された抗菌性物質、動物用医薬品のうち、飼料添加物として指定されている抗菌性物質と同一又は同系統で薬剤耐性の交差が認められる抗菌性物質により選択される薬剤耐性菌※(亜鉛バシトラス、スルファキノキサリン、スルフォンアミド系合成抗菌剤、テトラサイクリン系抗生物質、マクロライド系抗生物質)	5
2004/10/29	農	動物用医薬品 アンピシリンナトリウムを有効成分とする牛の注射剤(注射用ビクシリン)[肥][耐]、動物用医薬品 チアンフェニコールを有効成分とする牛及び豚の注射剤(ネオマイゾン注射液及びバシット注射液)[耐]	3
2005/2/14	厚	農薬 ジコホール	1
2005/8/5	農	動物用医薬品 スルファメトキサゾール及びトリメトプリムを有効成分とする豚の飲水添加剤(動物用シノラル液)[肥]、動物用医薬品 ホスホマイシンを有効成分とする牛の注射剤(動物用ホスミンS(静注用))[耐]	2
2005/9/13	厚	動物用医薬品 アンピシリンナトリウム[肥]、スルファメトキサゾール[肥]、トリメトプリム[肥]	3
2006/7/18	厚	動物用医薬品 アンピシリン☆[肥]、スルファメトキサゾール☆[肥]、トリメトプリム☆[肥]	3
2006/7/18	厚	農薬 ジコホール☆、	1
2006/12/19	厚	農薬 フリラゾール☆	1
2007/1/15	厚	農薬 イマゼタピルアンモニウム塩☆、ピノキサデン☆	2
2007/1/15	厚	動物用医薬品 クマホス☆	1
2007/2/6	厚	農薬 スピロキサミン☆	1
2007/2/6	厚	動物用医薬品 アレスリン☆、クロルマジノン、スルフィソゾール	3
2007/3/6	厚	農薬 トリチコナゾール☆	1
2007/3/6	厚	動物用医薬品 イソオイゲノール☆、イソシンコメロン酸ニプロピル☆	2
2007/3/20	厚	動物用医薬品 スルファチアゾール☆[肥]、スルファジメトキシ☆[肥]、スルファモメトキシ☆[肥]	3
2007/5/22	厚	動物用医薬品 フェノキシメチルペニシリン☆[肥]	1
2007/6/5	厚	農薬 メソスルフロメチル☆、スルフェントラゾン☆	2
2007/8/28	厚	動物用医薬品 ジクロキサシリン☆[肥]	1
2007/10/2	厚	農薬 ジクロメジン<一部>☆	2
2007/12/18	厚	農薬 クロピラリド☆、イソキサジフェンエチル☆	2
2008/3/11	厚	農薬 酸化プロピレン☆、プロディファコウム	2
2008/3/25	厚	農薬 イプロバリカルブ☆、スルホスルフロ、ピリデート、フッ化スルフリル	4
2008/6/3	厚	動物用医薬品 トビシリン[肥]	1
2008/7/8	厚	農薬 クロキントセットメキシル☆、クロジナホッププロパルギル☆	2
2008/7/8	厚	器具・容器包装 ビスフェノールAがヒトの健康に与える影響について※	1
2008/9/5	厚	器具・容器包装 カドミウム、鉛	2
2009/2/3	厚	農薬及び動物用医薬品 ホキシム☆	2
2009/2/9	厚	農薬 エチオン☆、オキシデメトンメチル☆、ジクロラン☆、ジノカップ☆、フェンプロピモルフ☆、ベナラキシル☆、ホレート☆	7
2009/3/10	厚	動物用医薬品 ピランテル☆[肥]	1
2009/3/24	厚	農薬 パラチオンメチル☆、フェナミホス☆	2
2009/3/24	厚	農薬及び動物用医薬品 ジクロルボス及びナレド☆	2
2010/2/16	厚	動物用医薬品 クロキサシリン☆[肥]	1
2010/2/16	厚	対象外物質 アスタキサンチン☆[肥]、β-アポ-8'-カロチン酸エチルエステル☆[肥]、β-カロテン☆[肥]、クエン酸☆[肥]、酒石酸☆[肥]、トウガラシ色素☆[肥]、乳酸☆<農薬用途もあり>[肥]、マリーゴールド色素☆[肥]、メナジオン☆[肥]、レチノール☆[肥]	11

I 専門調査会において検討中、または今後検討を開始するもの

接受日	要請元	食品健康影響評価の対象	
2010/3/1	厚	農薬 フルロキシピル☆	1
2010/3/23	厚	農薬 ベンタゾン☆	1
2010/5/11	厚	農薬 クロルデン☆	1
2010/6/22	農	農薬 ベンタゾン☆〈飼〉	1
2010/8/12	厚	農薬 ハロキシホップ☆	1
2010/9/13	厚	農薬 クロマゾン☆、トリクロピル☆	2
2010/9/27	厚	農薬 酸化フェンブタズ☆	1
2010/11/12	厚	農薬 イマザリル☆、ジフルフェンゾピル☆、ジメチピン☆、テルブホス☆、トリアスルフロン☆、パラチオン☆、ビンクロゾリン☆、モノクロトホス☆	8
2010/11/15	農	農薬 テルブホス〈飼〉☆	1
2010/12/10	厚	農薬及び動物用医薬品 クロルフェンビンホス☆	2
2010/12/10	厚・農	農薬及び動物用医薬品 メトプレン☆〈一部〈飼〉〉	3
2011/1/24	厚	農薬 ペンコナゾール☆	1
2011/1/24	厚	動物用医薬品 セフロキシム☆[肥]	1
2011/2/10	厚	農薬 エンドスルファン☆、クロリムロンエチル☆、クロルタールジメチル☆	3
2011/3/25	厚	農薬 エタメツルフロメチル☆、ジスルホトン☆、ブロモキシニル☆	3
2011/3/25	厚	動物用医薬品 ジミナゼン☆	1
2011/4/19	厚	添加物 カルミン	1
2011/4/25	農	農薬 ブロモキシニル☆〈飼〉	1
2011/6/10	厚	農薬 フェナリモル☆	1
2011/9/22	厚	農薬 EPTC☆、アミノピラリド☆、イオドスルフロメチル☆、2,4-DB☆、クロルスルフロン☆、シクロキシジム☆、ジフェンゾコート☆、テクナゼン☆、ニコスルフロン☆、マレイン酸ヒドラジド☆、メトスルフロメチル☆	11
2011/10/11	厚	農薬 ジクロホップメチル☆、トリベヌロンメチル☆、ピクロラム☆、フェノキサプロップエチル☆、ブタフェナシル☆、フルオメツロン☆、アトラジン☆	7
2011/10/11	農	農薬 アトラジン☆〈飼〉	1
2011/11/18	厚	農薬 トラルコキシジム☆、フェノキシカルブ☆、プロスルフロン☆	3
2011/12/19	厚	プリオン 牛海綿状脳症（BSE）対策の見直し（オランダ）	1
2012/1/23	厚	農薬及び動物用医薬品 シハロトリン☆	2
2012/1/23	農	農薬 エチオン☆〈飼〉、ホレート☆〈飼〉、シハロトリン☆〈飼〉、ジクロルボス及びナレド☆〈飼〉	4
2012/1/23	厚	動物用医薬品 スルファジミジン☆[肥]	1
2012/3/26	厚	農薬 リムスルフロン☆	1
2012/3/26	厚	農薬及び動物用医薬品 エマメクチン安息香酸塩☆	2
2012/5/21	厚	農薬 4-クロルフェノキシ酢酸☆、トリデモルフ☆、フラムプロップメチル☆	3
2012/7/18	厚	農薬 テフルトリン☆	1
2012/7/18	厚	動物用医薬品 バシトラシン☆[肥]	1
2012/8/21	農	農薬 シフルトリン☆〈飼〉	1
2012/8/21	厚	農薬 フサライド☆、フルスルファミド☆	2
2012/8/21	厚	農薬及び動物用医薬品 シフルトリン☆	2
2012/8/21	厚	動物用医薬品 カルバドックス☆[肥]	1
2012/9/18	厚	農薬 メコプロップ☆	1
2013/1/22	農	農薬 クロルピリホスメチル☆〈飼〉、クロルフェンビンホス☆〈飼〉、シマジン☆〈飼〉、パラチオン☆〈飼〉	4
2013/1/30	厚	農薬 クロルピリホスメチル☆、シマジン☆	2
2013/3/12	厚	農薬 アイオキシニル☆、イプロジオン☆、エテホン☆、オキサミル☆、カルフェントラゾンエチル☆、クロリダゾン☆、ターバシル☆、ピリミホスメチル☆、フルシトリネート☆、ホルクロルフェニユロン☆、メタミトロン☆、メチダチオン☆、レナシル☆	13
2013/3/12	厚	動物用医薬品 ハロフジノン☆[肥]	1

I 専門調査会において検討中、または今後検討を開始するもの

接受日	要請元	食品健康影響評価の対象	
2013/3/12	農	農薬 ピリミホスメチル☆	1
2013/4/2	厚	プリオン プリオン ポーランドから輸入される牛肉及び牛の内臓について※	1
2013/6/10	農	農薬 γ-BHC☆〈飼〉、ジメトエート☆〈飼〉、パラコート☆〈飼〉、メチダチオン☆〈飼〉	4
2013/6/12	厚	農薬 アラニカルブ☆、イマザキン☆、ジウロン☆、シプロコナゾール☆、ジメトエート☆、パラコート☆、フルキンコナゾール☆	7
2013/8/20	厚	農薬 DBEDC■〈一部☆〉、ノニルフェノールスルホン酸銅■〈一部☆〉、イマザモックスアンモニウム塩☆、ヒメキサゾール☆、メトリブジン☆、リニュロン☆	8
2013/8/20	厚	農薬及び動物用医薬品 ジヒドロストレプトマイシン及びストレプトマイシン☆[肥]	2
2013/12/10	厚	動物用医薬品 ナイカルバジン☆[肥]	1
2014/3/25	厚	動物用医薬品 マデュラマイシン☆[肥]、ロベニジン☆[肥]	2
2014/9/9	厚	農薬 ピラゾリネート☆	1
2015/1/8	厚	プリオン スウェーデンから輸入される牛肉及び牛の内臓 ※	1
2015/5/14	厚	プリオン スイス及びリヒテンシュタインから輸入される牛肉及び牛の内臓※	1
2015/9/30	厚	プリオン イタリアから輸入される牛肉及び牛の内臓※	1
2015/12/18	厚	プリオン 牛海綿状脳症（BSE）国内対策の見直し※	1
2017/4/19	厚	農薬 ピレトリン☆	1
2017/8/3	厚	プリオン 英国から輸入される牛、めん羊及び山羊の肉及び内臓 ※	1
2017/11/30	厚	遺伝子組換え食品等 ミラクリン発現トマト（TU-IP105B-1）（食品）■	1
2017/12/19	農	遺伝子組換え食品等 ミラクリン発現トマト（TU-IP105B-1）（飼料）■	1
2018/7/4	農	動物用医薬品 バルネムリン塩酸塩を有効成分とする豚の飼料添加剤（エコノア1%プレミックス及び同10%プレミックス）■[耐]	1
2019/1/10	厚	添加物 25-ヒドロキシコレカルシフェロール■	1
2019/2/27	農	動物用医薬品 アモキシシリン水和物を有効成分とする牛及び豚の注射剤（アモスタックLA注）■[耐]	1
2019/5/22	厚	遺伝子組換え食品等 JPAo003株を利用して生産されたリパーゼ■	1
2019/9/5	厚	農薬 ベンタゾン	1
2019/9/5	厚	農薬及び動物用医薬品 シフルトリン	1
2019/10/10	厚	微生物・ウイルス 乳等省令に係る調製粉乳の審査事項について（育児用ミルク）※	1
2019/10/24	厚	遺伝子組換え食品等 チョウ目害虫抵抗性サトウキビ CTC175-A■、CA02-1191株を利用して生産されたL-グルタミン酸ナトリウム■	2
2019/11/28	厚	遺伝子組換え食品等 JPBL006株を利用して生産されたキシラナーゼ■	1
2019/12/11	農	肥料・飼料等 ムラミダーゼ■	1
2019/12/12	厚	遺伝子組換え食品等 JPAo004株を利用して生産されたキシラナーゼ■、JPAo005株を利用して生産されたキシラナーゼ■	2
2020/1/28	厚	遺伝子組換え食品等 Morph TG#626株を利用して生産されたα-グルコシダーゼ■	1
2020/2/13	厚	動物用医薬品 ジニトルミド ☆[肥]	1
2020/2/27	厚	遺伝子組換え食品等 JPBL004株を利用して生産されたホスホリパーゼ■、JPBL005株を利用して生産されたホスホリパーゼ■	2
2020/3/17	厚	動物用医薬品 塩化ジデシルジメチルアンモニウム☆、オルトジクロロベンゼン☆、グリカルピラミド☆、クロステボル☆、ジブチルサクシネート☆、チオプロニン☆、トリブロムサラン☆、ニタルソン☆、ノルジェストメット☆、ヒドロコルチゾン☆、マホプラジン☆	11

I 専門調査会において検討中、または今後検討を開始するもの

接受日	要請元	食品健康影響評価の対象	
2020/3/17	厚	飼料添加物 オルメトプリム☆、ジアベリジン☆、スルファクロルピリダジン☆、スルファジアジン☆、スルファドキシム☆、スルファモイルダブソン☆、ニフルスチレン酸ナトリウム☆、ピリメタミン☆、ロキサリソン☆、アンプロリウム☆、エトパベート☆、スルファキノキサリン☆、エンラマイシン☆、カンタキサンチン☆	14
2020/3/31	農	遺伝子組換え食品等 JPTR003株を利用して生産されたムラミダーゼ■、ジャガイモ疫病抵抗性、低遊離アスパラギン、低還元糖及び低ポリフェノール酸化酵素ジャガイモ SPS-00X17-5 (飼料) ■	2
2020/5/12	厚	遺伝子組換え食品等 JPAN003株を利用して生産されたグルコアミラーゼ■、JPAN007株を利用して生産されたヘミセルラーゼ■	2
2020/5/13	厚	プリオン 「ドイツから輸入される牛、めん羊及び山羊の肉及び内臓」※	1
2020/5/26	厚	遺伝子組換え食品等 JPAN005株を利用して生産されたペクチナーゼ■	1
2020/7/13	厚	遺伝子組換え食品等 LFS 株を利用して生産されたリパーゼ■	1
2020/7/20	農	遺伝子組換え食品等 ジャガイモ疫病抵抗性、低遊離アスパラギン、低還元糖及び低ポリフェノール酸化酵素ジャガイモSPS-000Z6-5(飼料) ■	1
2020/7/28	厚	農薬 ポリオキシシン (ポリオキシシンD亜鉛塩及びポリオキシシン複合体) ■☆	2
2020/9/24	厚	遺伝子組換え食品等 除草剤グリホサート誘発性雄性不稔並びに除草剤ジカンバ、グルホシネート、アリルオキシアルカノエート系及びグリホサート耐性トウモロコシMON87429系統 (食品) ■、Raα3114株を利用して生産されたプロテアーゼ■、RG-V1株を利用して生産されたL-バリン■	3
2020/10/5	農	遺伝子組換え食品等 除草剤グリホサート誘発性雄性不稔並びに除草剤ジカンバ、グルホシネート、アリルオキシアルカノエート系及びグリホサート耐性トウモロコシMON87429系統 (飼料) ■	1
2020/10/16	農	遺伝子組換え食品等 長鎖多価不飽和脂肪酸含有及びイミダゾリノン系除草剤耐性セイヨウナタネLBFLFK (飼料) ■、Komagataella pastoris 132株を利用して生産されたフィターゼ■	2
2020/10/19	厚	農薬 シアゾファミド■、ジメテナミド■、ペンディメタリン■、マンジプロパミド■、メタフルミゾン■	5
2020/10/19	農	農薬 ペンディメタリン■	1
2020/10/19	厚	遺伝子組換え食品等 長鎖多価不飽和脂肪酸含有及びイミダゾリノン系除草剤耐性セイヨウナタネLBFLFK (食品) ■	1
2020/10/19	厚	肥料・飼料等 安息香酸■	1
2020/10/20	農	肥料・飼料等 安息香酸■	1
2020/10/30	厚	遺伝子組換え食品等 BML780 MDT06-221株を利用して生産されたα-アミラーゼ■	1
2020/11/11	厚	農薬 MCPA■、ウニコナゾールP■、キャプタン■、クロルピクリン■、セダキサシ■、プロシミドン■、メタミホップ■	7
2020/11/11	厚	動物用医薬品 ルバベグロン■	1
2020/11/20	厚	遺伝子組換え食品等 MAM株を利用して生産されたα-アミラーゼ■、DSM32805株を利用して生産されたキモシン■	2

I 専門調査会において検討中、または今後検討を開始するもの

接受日	要請元	食品健康影響評価の対象
2020/12/14	厚	農薬 ピリオフェノン■、フルチアニル■、プロパルギット■、ホラムスルフロン■、マンデストロビン■ 5

(注)

☆印は、ポジティブリスト制度に伴う食品安全基本法第24条第2項に基づく意見聴取案件である。

※印は、食品安全基本法第24条第3項に基づく意見聴取案件である。

■印は、企業申請案件である（平成22年1月1日以降委員会において説明したもののみ）。

◎印は、食品安全基本法第23条第1項第2号による自ら評価である。

[肥]印は、肥料・飼料等専門調査会が担当する評価案件である。

[耐]印は、薬剤耐性菌に関する評価が必要なもの。

Ⅱ 専門調査会における審議結果（案）について意見募集を行っているもの

募集期間	対象となる審議結果（案）	
2020/10/28～2020/11/26	遺伝子組換え食品等 EVG-L1株およびEVG-G1株を利用して生産されたグルタミルバリルグリシン■	1
2020/11/11～2020/12/10	肥料・飼料等 デコキネート☆、バージニアマイシン☆	2
2020/11/11～2020/12/10	遺伝子組換え食品等 ジャガイモ疫病抵抗性、低遊離アスパラギン、低還元糖及び低ポリフェノール酸化酵素ジャガイモ SPS-00X17-5（食品）■、ジャガイモ疫病抵抗性、低遊離アスパラギン、低還元糖及び低ポリフェノール酸化酵素ジャガイモSPS-00Z6-5（食品）■	2
2020/12/16～2021/1/14	プリオン スペインから輸入される牛、めん羊及び山羊の肉及び内臓について※	1
2020/12/16～2021/1/14	薬剤耐性菌 硫酸コリスチン◎	1
2020/12/22～2021/1/21	動物用医薬品 トロメタミンジノプロストを有効成分とする牛の注射剤（動物用プロナルゴンEZ注射液）■	1

（注）

★は案件については意見募集は終了している。

☆印は、ポジティブリスト制度に伴う食品安全基本法第24条第2項に基づく意見聴取案件である。

※印は、食品安全基本法第24条第3項に基づく意見聴取案件である。

■印は、企業申請案件である（平成22年1月1日以降委員会において説明したもののみ）。

◎印は、食品安全基本法第23条第1項第2号による自ら評価である。

[肥]印は、肥料・飼料等専門調査会が担当する評価案件である。

[耐]印は、薬剤耐性菌に関する評価が必要なもの。

Ⅲ 食品安全委員会において既に食品健康影響評価を終了したもの（令和2年度）

通知日	食品健康影響評価の対象	
2020/4/21	農薬 ミクロブタニル■	1
2020/5/19	飼料添加物 サリノマイシンナトリウムの基準及び規格の改正	1
2020/5/19	薬剤耐性菌 家畜に使用するピコザマイシン（飼料添加物、動物用医薬品）※	2
2020/6/16	添加物 炭酸カルシウム	1
2020/6/16	農薬 フェンプロパトリン■☆〈飼〉☆、ピメトロジン、フェンヘキサミド■	5
2020/6/16	動物用医薬品 チルジピロシン■	1
2020/6/16	遺伝子組換え食品等 Rhodobacter sphaeroides 168株を利用して製造された香料バレンセン■、JS1252株を利用して生産されたエキソマルトテトラオヒドロラーゼ■	2
2020/8/4	農薬 シフルメトフェン■	1
2020/8/4	農薬及び動物用医薬品 デルタメトリン及びトラロメトリン	2
2020/8/18	添加物 炭酸カルシウム	1
2020/8/18	添加物 メタ酒石酸	1
2020/8/18	添加物 L-酒石酸カリウム	1
2020/8/18	動物用医薬品 酢酸トレンボロン☆	1
2020/9/1	農薬 エタボキサム■	1
2020/9/1	農薬 チオキサザフェン■	1
2020/9/1	農薬 フェンブコナゾール	1
2020/9/1	農薬 プロクロラズ☆	2
2020/9/1	農薬 1-メチルシクロプロペン■	1
2020/9/1	動物用医薬品 ジクロロイソシアヌル酸☆	1
2020/9/1	動物用医薬品 トルトラズリル■	1
2020/9/1	飼料添加物 Bacillus licheniformis JPBL001株が産生するアルカリ性プロテアーゼを原体とする飼料添加物■	1
2020/9/1	新開発食品 トク牛サラシアプレミアム■	1
2020/9/15	添加物 DL-酒石酸カリウム	1
2020/9/15	農薬 チアジニル	1
2020/9/15	農薬 ベンゾビンジフルピル■	1
2020/9/29	農薬 スピネトラム■	1
2020/9/29	農薬 バリダマイシン■☆	2
2020/9/29	飼料添加物 ジブチルヒドロキシトルエン☆	2
2020/9/29	普通肥料の公定規格の改正	1
2020/10/13	農薬 フェンキノトリオン■、フルオキサストロビン■	2
2020/10/20	農薬 チエンカルバゾンメチル■	1
2020/10/20	動物用医薬品 オクスフェンダゾール、フェバンテル及びフェンベンダゾール■、フェバンテルを有効成分とするふぐ目魚類及びすずき目魚類の寄生虫駆除剤（マリンバンテル）■、グレプトフェロン及びトルトラズリルを有効成分とする豚の注射剤（バイコックス アイアン注射液）■	3
2020/10/27	動物用医薬品 オイゲノール☆、オキシクロザニド☆、クロールヘキシジン☆	3
2020/10/27	微生物・ウイルス 食品衛生法第13条第1項の規定に基づく清涼飲料水の規格基準の改正	1
2020/10/27	動物用医薬品 鶏伝染性ファブリキウス嚢病・マレック病（鶏伝染性ファブリキウス嚢病ウイルス由来VP2遺伝子導入七面鳥ヘルペスウイルス）凍結生ワクチン（バキシテックHVT+IBD）■	1
2020/10/27	農薬 カスガマイシン■	1
2020/11/17	添加物 キチンゲルカン	1
2020/11/24	農薬 トルフェンピラド■	1
2020/11/24	動物用医薬品 酢酸イソ吉草酸タイロシン☆、ナフシリン☆、メシリナム☆	3

Ⅲ 食品安全委員会において既に食品健康影響評価を終了したもの（令和2年度）

通知日	食品健康影響評価の対象	
2020/12/8	添加物 亜硫酸水素アンモニウム水、ポリビニルイミダゾール-ポリビニルピロリドン共重合体	2
2020/12/8	動物用医薬品 イソメタミジウム☆	1
2020/12/8	動物用医薬品 ニトロキシニル☆、メンブトン☆	2
2020/12/15	農薬 フラザスルフロン☆、ホスチアゼート■〈一部☆〉	3
2020/12/15	動物用医薬品 フルララネルを有効成分とする鶏の飲水添加剤(エグゾルト)■	1
2020/12/15	プリオン オーストリアから輸入される牛、めん羊及び山羊の肉及び内臓※、デンマークから輸入される牛肉及び牛の内臓※、フィンランドから輸入される牛、めん羊及び山羊の肉及び内臓※	3
2020/12/22	動物用医薬品 ゼラノール☆	1
2020/12/22	遺伝子組換え食品等 CF307株を利用して生産されたキシラナーゼ■、ZGL株を利用して生産されたグルコースオキシダーゼ■	2

(注)

☆印は、ポジティブリスト制度に伴う食品安全基本法第24条第2項に基づく意見聴取案件である。

※印は、食品安全基本法第24条第3項に基づく意見聴取案件である。

■印は、企業申請案件である（平成22年1月1日以降委員会において説明したもののみ）。

◎印は、食品安全基本法第23条第1項第2号による自ら評価である。

[肥]印は、肥料・飼料等専門調査会が担当する評価案件である。

[耐]印は、薬剤耐性菌に関する評価が必要なもの。

IV その他

通知日	通知先	件名
2004/1/30	厚・農・環	遺伝子組換え食品（種子植物）の安全性評価基準 遺伝子組換え植物の掛け合わせについての安全性評価の考え方
2004/3/18	農	普通肥料の公定規格に関する食品健康影響評価の考え方
2004/3/25	厚・農・環	遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物の安全性評価基準
2004/5/6	厚・農・環	遺伝子組換え飼料及び飼料添加物の安全性評価の考え方
2004/8/5	厚・農	特定保健用食品の安全性評価に関する基本的考え方
2004/9/30	農	家畜等への抗菌性物質の使用により選択される薬剤耐性菌の食品健康影響に関する評価指針
2005/4/28	厚・農・環	遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物のうち、アミノ酸等の最終産物が高度に精製された非タンパク質性添加物の安全性評価の考え方
2006/6/29	厚・農	暫定基準が設定された農薬等の食品健康影響評価の実施手順
2007/9/13	厚・農	食品により媒介される微生物に関する食品健康影響評価指針（暫定版）
2008/6/26	厚・農・環	遺伝子組換え食品（微生物）の安全性評価基準
2010/5/27	厚	添加物に関する食品健康影響評価指針
2016/5/17	厚	香料に関する食品健康影響評価指針
2017/7/18	厚	添加物に関する食品健康影響評価指針（改正） 栄養成分関連添加物に関する食品健康影響評価指針 添加物（酵素）に関する食品健康影響評価指針
2018/4/10	厚・農	動物用医薬品に関する食品健康影響評価指針
2018/9/25	厚・農	飼料添加物に関する食品健康影響評価指針 動物用医薬品に関する食品健康影響評価指針（改訂）
2019/5/28	厚	食品用器具及び容器包装に関する食品健康影響評価指針
2019/10/1	厚・農	残留農薬に関する食品健康影響評価指針
2019/10/29	厚・農	食品健康影響評価におけるベンチマークドーズ法の活用に関する指針
2019/11/13	厚・農	遺伝子組換え植物の掛け合わせについての安全性評価の考え方
2020/3/24	厚・農	食品安全委員会専門調査会等運営規定 改正
2020/6/16	厚・農	残留農薬の食品健康影響評価におけるコリンエステラーゼ阻害作用を有する農薬の取扱いについて